

広島県建設分野の革新技術活用制度に係る技術の登録及び活用実績について

1 要旨

「広島県建設分野の革新技術活用制度（以下「本制度」という。）」に基づく第8期登録について、その登録状況及び過年度の活用実績を報告する。

2 現状・背景

建設分野における担い手不足などの様々な課題に対応するため、公共土木施設の調査・設計・施工・維持管理のあらゆる段階において、施設の長寿命化技術及びインフラ整備等の効率化・高度化に資する革新技術を登録・活用する本制度の運用を行っている。

3 概要

(1) 登録状況

第8期登録では、令和7年度下半期に申請のあった7技術（うち、1技術は登録区分変更）について、広島県建設分野の革新技術検討委員会（委員長：中山隆弘 広島工業大学名誉教授）の意見を踏まえた技術審査により、6技術の新規登録及び1技術の登録区分変更を行い、現時点の登録数は201技術となっている（第8期登録技術の詳細は添付資料のとおり）。

<第8期新規登録結果>

主部門	区分3	区分2	区分1	合計
長寿命化	2※	1	0	3※
効率化	3	0	0	3
高度化	1	0	0	1
合計	6※	1	0	7※

※既に登録されている技術の区分変更登録（区分2→区分3）した1技術含む。

<令和8年6月末時点の登録状況一覧>

	主部門	区分3	区分2	区分1	合計
第1～8期	長寿命化	65	18	0	83
	効率化	74	10	0	84
	高度化	24	8	2	34
合計		163	36	2	201

なお、登録技術の概要については、県ホームページで公表している。

<県ホームページリンク>

<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/asset/summary-of-the-technology.html>

【参考】

<部門>

部門名	求める技術
長寿命化	ライフサイクルコストの縮減など、施設の長寿命化に資する技術
効率化	建設工事等の省人化・省力化や工期短縮など、インフラ整備等の効率化に資する技術
高度化	施設の点検・診断、データの分析など、インフラ整備等の高度化に資する技術

<登録区分>

登録区分	区分の考え方
区分3	活用促進を図る技術
区分2	技術の試行により効果を確認することが必要な技術
区分1	活用するには更なる開発または改良が必要な技術

(2) 県事業における活用実績

令和7年度における活用技術数及び活用工事件数は、過年度と比較し増加傾向にあり、現場における登録技術の活用が順調に進展している。

<全体>

年度	活用技術数	活用工事件数
R4	43 技術	194 件
R5	72 技術	263 件
R6	77 技術	316 件
R7	84 技術	530 件

<長寿命化部門>

指標：60年間のライフサイクルコスト縮減額

年度	活用技術数	活用工事件数	ライフサイクルコスト(単位:百万円)		
			従来技術	登録技術	縮減額
R4	30 技術	122 件	2,323	1,590	733
R5	42 技術	135 件	2,117	1,333	784
R6	36 技術	127 件	3,241	1,996	1,245
R7	40 技術	234 件	2,233	1,127	1,107

(主な活用技術)

- ・石灰石微粉末 (LS) を混和材に用いて耐久性を向上させたプレキャストL型擁壁
- ・従来技術よりも接着強度が高く、耐久性に優れた舗装材料(タックコート) など

<効率化部門>

指標：工程短縮日数 (従来技術と比較)

年度	活用技術数	活用工事件数	日数		工程短縮日数 C=A-B	短縮率 D=C/A
			従来技術 A	登録技術 B		
R4	10 技術	68 件	1,511 日	879 日	632 日	42%
R5	27 技術	120 件	2,472 日	1,357 日	1,115 日	45%
R6	33 技術	160 件	2,038 日	1,317 日	721 日	35%
R7	37 技術	253 件	5,739 日	4,112 日	1,627 日	28%

(主な活用技術)

- ・ブロック積み擁壁におけるプレキャスト小口止工
- ・高所部における施設点検のドローンの活用 など

<高度化部門>

指標：定性的評価

年度	活用技術数	活用工事件数
R4	3技術	4件
R5	3技術	8件
R6	8技術	29 件
R7	7技術	43 件

(主な活用技術)

- ・舗装敷設温度を下げるができるアスファルト混合物の使用によるCO2排出量削減
- ・コンクリート構造物のひび割れをAIにより自動検出するシステム技術 など

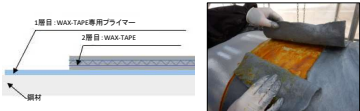
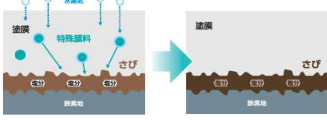
4 今後の取組

「ひろしま建設イノベーション」など、様々な機会を通じて、本制度や登録技術を情報発信し、引き続き、一層の技術開発を促すとともに、新技術を公共事業等で積極的に活用することでコスト縮減や効率化を図っていく。

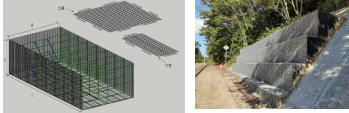
■第8期登録技術の概要

添付資料

(長寿命化部門)

登録番号	主部門	副部門	登録区分	技術名称	申請者	登録日	技術概要
1-07-082-3	長寿命化	効率化	区分3	ULTRA-WAX-TAPE -高耐久性防水・防食システム-	阿南電機㈱	令和8年3月30日	鋼構造物(主に橋梁添接部の突起部、支承部)の長耐久性の防水・防食工法。対象箇所は3種ケレン程度で十分で、その上に当該テープを貼付、巻付けるだけの簡易施工である。従来の塗装工法に比べ本技術の活用により、工期短縮、経済性・耐久性の向上が図れる。 
1-08-084-3 (1-04-001-2) ※区分変更	長寿命化	—	区分3	透明ボルトキャップ (透明ボルトアイキャップ)	㈱Hインフラステム 中国支店	令和8年3月30日(当初登録: 令和4年10月5日)	鋼構造物のボルト部に、透明ボルトアイキャップをつば(キャップで、帽子のつばのような部分)のみ接着し、発錆しやすいボルト部を防錆する技術。耐久性向上とともに、内部可視となり、点検時近接目視や交換時取り外しの時間短縮を実現する。 
1-07-083-2	長寿命化	—	区分2	高防食耐久性塗料「ダンジオーラE下塗」	日本ペイント㈱	令和8年3月30日	鋼構造物を対象とした下塗り塗料であり、従来は一般的な変性エポキシ樹脂塗料下塗りに対応していた。本技術の活用により、素地調整の簡易化、防食品質向上によるライフサイクルコストの低減、施工時の制約条件の減少が期待できる工法である。 

(効率化部門)

登録番号	主部門	副部門	登録区分	技術名称	申請者	登録日	技術概要
2-07-082-3	効率化	—	区分3	アルミディスク	㈱トース広島事務所	令和8年3月30日	鉄筋挿入工の反力体で機能する円形アルミニウム合金受圧板である。製品の軽量化を実現し、円形ハニカム形状としたことでの強度の向上、四角から円形にしたことで取付時の方向性・傾きの心配が不要となり設置手間時間の短縮が可能となった。 
2-07-083-3	効率化	—	区分3	大型砕石かご	共和ハーモテック㈱	令和8年3月30日	単粒度砕石(20~8mm)の中詰材に利用可能な小粒石対応大型かご工であり、従来は大型ふとんかご工に割栗石を詰めて対応していた。本技術の活用により、工期の短縮・経済性・施工性・安全性の向上が望める。 
2-07-084-3	効率化	—	区分3	あと施工アンカー 引張荷重確認試験機	サンコーテクノ㈱	令和8年3月30日	アンカーボルト引張荷重の一体型試験測定システム『テクノテスターシリーズ』である。設備、耐震、土木などあらゆる場面で要求される試験に合わせて、豊富なバリエーションで現場のニーズに応えることが可能である。 

(高度化部門)

登録番号	主部門	副部門	登録区分	技術名称	申請者	登録日	技術概要
3-07-035-3	高度化	—	区分3	空間監視カメラの高度化による地形変状監視	三菱電機㈱	令和8年3月30日	従来の空間監視カメラ機能に加えて、レーザー測距機能を有する3Dレーザースキャナー一体型カメラ(Field Viewer)により点群情報を取得し、地形変状解析装置で自動計測、解析、表示等を行うシステムである。 